

とを肌で感じた。

最後に、私達を暖かく御指導くださった先生に厚く御礼を申し上げたい。

(井内先生指導 2年 桜井敬子・桜井昌子)

諏訪巡検 (9月4日～9月7日)

9月4日午後零時30分。私達は、上諏訪駅に集合した。これからが諏訪巡検のはじまりだ。しかし、そうした私達の気持ちとらはらにくずついた空模様ではやくもポツリポツリと雨にたたられてしまった。私達は、汚染されて緑色に変色してはいるが、海拔759m水深7m周囲18kmの諏訪湖とそれを取り囲むようにそびえる信州の山々の美しい景色に目をうばわれながらひとまず宿に荷をおろした。午後2時、私達は、諏訪湖やそこにひらける扇状地や集落を眼下に見おろす高原バスで左右にゆられながら霧ヶ峰牧場に到着。飼料用に作付されているとうもろこし畑の中、点々とサイロが見える。茅野牧場を見学したが、ここは満州ひきあげ後、昭和24年から開墾し、総面積24ha、乳牛90頭を飼育していた。毎年血統のいい経産牛をアメリカやカナダから輸入し品種を高めていた。私達は、乳牛のあまりの巨大さに驚嘆するばかりであった。牧場見学後、天候が急変し、夏だということに、直径8mm程度のひょうが空から降ってきて、またまた、驚ろくばかりであった。

9月5日、快晴。上諏訪市役所と下諏訪町役場で説明を聴取した後、岡谷市役所蚕糸博物館を見学。その内容は 日本資本主義勃興は生糸にあり、横浜から外貨を得た。ところが、太平洋戦争中、中央の軍需産業が疎開し、山中のため戦火からまぬがれ、又、施設もあり、労働力もあるという条件から、敗戦後もそのままのこり、カメラ、レンズ、顕微鏡といった光学関係と時計の精密機械がこの地域に発達してき、桑園は、そうした工場の敷地へと変わっていった。現在、メリヤス工業は下諏訪が中心に、精密機械工業は岡谷市が中心に行なわれている。

9月6日、快晴。ヤシカ工場の見学、近代的な工場の中、ベルトコンベアーで運ばれるカメラの一部品のとりつけが、数百人もの作業員によって行なわれている。徹底した社員教育(人を育てる企業をモットーに)がなされはしていたが、合理化のため、従業員は1500人から700人に削減されている。そして、親会社一子会社という縦の系列を強く感じる岡谷市であった。

9月5日午後から7日にわたり、私達は、諏訪巡検の目的である地誌作成のため、9つのグループに分かれ、本格的に自分たちの調査を開始した。新しい知識を求めて、散らばっていった地理科メンバーであるが、はたして、どんな地誌が集大成できるか、楽しみである。

(浅井・内藤先生指導 3年 桑田裕代)